



オリンピック余聞

浅野 純次

(経済倶楽部理事長)

▼世界最大のスポーツの祭典は当然、オリンピックだろうと思いますが、大陸ごとに行われる予選段階から国々を興奮の渦に巻き込むサッカーワールドカップのほうも経済効果は大きいそうです。確かに本大会だけでも延べ400億人もの人々がテレビ中継に熱狂するというのは、オリンピック以上でしょう。

▼サッカーワールドカップ、オリンピック、ラグビーワールドカップの順にスポーツの世界三大大会と呼ぶのが世界の常識で、知り合いの外国人はみなオリンピックの話より、サッカーかラグビーのワールドカッ

プで盛り上がります。なでしこジャパンにはオリンピックで金メダルをとってほしいですが、多くの国にとってはなでしこがワールドカップでチャンピオンになったことのほうが価値はずっと高いのです。この辺は日本人には理解しにくいところかもしれません。

▼世界と日本のギャップという点では、オリンピックとノーベル賞は共通するところがあります。ノーベル賞を取れば日本では国民的英雄ですが、欧米では数ある国際的な賞のうちの一つというくらいのもので、オリンピックとノーベル賞についての初等教育とマスコミ報道が日本人の両者への思い入れを強めたのだらうと思っていますが、毎年、ノーベル賞の国別メダル数で騒ぐマスコミには首を傾げたくありません。

▼オリンピックも同様で、マスコミが国別メダル獲得数を連日、報道し、過剰に言及するのは、ナチスの国威発揚ほどではないにせよオリンピックの精神とはずれてしまっているのでは？ 国別メダル数が、日本、

中国、韓国、北朝鮮の東アジア4カ国に共通して国家的重大事なのは、対抗的ナショナリズムで盛り上がる地域らしい現象です。その点、マスコミは抑制ぎみのほうが好ましく、ナショナリズムを煽って部数を増やそうとするなどポピュリズムそのものではないでしょうか。

▼そうはいっても、ロンドンオリンピックでの日本選手の活躍はやはり待ち遠しくて(笑) 個人的には歳のせいも女子ですね。過去20年、具体的には1992年のバルセロナ以来、アトランタ、シドニー、アテネ、北京と、最近の5大会合計でのメダル数が、男子も女子も58で同数というのは意外な数字かもしれません。

▼80年代まで女子選手の活躍はバレーとマラソンぐらいのものであったのが、今や状況一変、女子種目の広がりもあるでしょうが、今回もサッカー、柔道、水泳、卓球、レスリング、バドミントン、マラソン、新体操など期待種目が目白押しです。で、今回、メダル数では男子を圧倒するかもしれない勝手に思っています。

▼女子がこれほど強くなってきたのは、女子スポーツに対する偏見がなく、学校スポーツでものびのび育っているからでしょう。それに比べ、政界、官界、産業界で女性がいつこうに活躍できない数少ない国であるのは、「ガラスの天井」のせいというだけでは片付けられない何かがあるのではないかと。スポーツは女だけの世界で切磋琢磨すれば結果を出せるという点で、政官界よりは恵まれているのかもしれない。

▼ところでラグビーのワールドカップが次の次、2019年に日本で開催されます。ラグビー人気は旧大英帝国系の国々と、フランス、南ア、太平洋の島嶼国家などサッカーに比べ限定されていますが、次のオリンピックからは7人制ラグビーが正式種目になるので世界的に関心が高まりそうです。日本はワールドカップでまだ1勝しかしていませんが、興行きの深い面白いスポーツなので、日本代表も早く世界のトップ10入りしてファンが増える好循環を期待したいと思えます。